

鈴木秀洋発表メモ 20230116

第1 目指すべき方向性

多様な一人ひとりの個性（安全安心・大切なもの・違い）を
尊重すること、守ること

第2 子どもをめぐる現状

- 1 [Q]子どもを取り巻く現状はどうなっているのか
→虐待、いじめ、学校や施設での体罰、ブラック校則など…
- 2 国の動き
子ども家庭庁設置、こども基本法、児童福祉法の改正
→添付鈴木論文
[Q]国と地方の乖離、理念と現場の乖離

第3 現状の問題や課題の原因は？

- 大人側にあるのではないかな？
大人側が矛盾したメッセージを発していないか。ダブルバインドにしていないか。
→実は、子どもは選択ができる環境に置かれていない
(例) 授業で使う道具・楽器が足りない
←無用な争いを起こさせている。
(例) 貸して・いいよ の強制 ～思いやりのある模範生徒像
(例) 校則
「決まりは決まり」←やめませんか。説明できないものの強制
「流行を追いかけてない」「かわいいは禁止」
→無用な競争に晒されることが多すぎる（ランキングや進学実績など）
→教員のプライド
(例) 大分県剣太事件、大川小津波事件

第4 改善策

1 教員・保育者の教育こそ

～教員側に多様性の心がなければ、子どもの多様性は尊重できない
～教員・保育者の多様性を尊重しよう。

～多様性尊重の学習の機会を増やそう

(教育や保育の大変さの解消は、ハードで解決できることもある、
決まりは決まり、らしいの強制はやめる…)

子どもに規範を押し付けない。(説明できない) 校則をなくす

2 子どもの個性尊重と子どもの個性を守るのは大人の責任!

3 子どもと大人は価値対等との意識付け (マウントをやめる)